

目次

■ ロシアの旅客機大量生産計画の現実性	1
■ 統計速報	10
2023年1～12月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／10	
2023年1～12月の日ロ貿易／11	
■ キーパーソン	14
カザフスタンで首相交代／14	
アリエフ・アゼルバイジャン大統領5選／15	
トルクメニスタンで閣僚交代／16	
■ トピックス	17
日韓3カ国間航路、7月に再開の見通し／17	
ロシアの2023年のGDP 3.6%のプラス／17	
台湾、77品目を対ロ禁輸リストに追加／17	
三菱重工業、ウズベク火力発電所の設備を受注／18	
日ウクライナ経済復興推進会議開催へ／18	
ウクライナ国鉄、日本製鉄からレール調達へ／18	

ロシアの旅客機大量生産計画の現実性

(一社)ロシアNIS貿易会 ロシアNIS経済研究所
研究員 渡邊 光太郎

1. Tu-214を本気で増産するらしい

2023年1月、ロシアの旅客機製造に関する新しいニュースが報道された。ロシアがボーイング機、エアバス機の代替として生産拡大を計画するTu-214型機の内装につき、アエロフロートとUAC社(統一航空機製造企業)で合意がされたという。Tu-214型機は極めて微妙な存在で、Tu-214型機の増産はいろいろと不思議である。

Tu-214型はソ連時代に開発されたTu-204の派生型で、現在のツポレフ社カザン工場で製造されるものである。微妙な差はあるがTu-204の基本派生と仕様上の大きな差はない。言い換えると、ソ連時代の飛行機そのままである。

ロシアの航空機メーカーはややこしい。元々、別々の企業であったものが、20年単位の時間をかけてUAC社に統合されつつある。ツポレフ社カザン工場は、元々、KAPOという独立企業であったが、ツポレフ社に吸収された。ツポレフ社はUAC社の子会社になっている。今のところツポレフ社もUAC社の傘下であるが、かつては独立した企業であったスホイ社やミグ社もUAC社に吸収され、法人格